



(写真) PDVSA “PDVSA 英「Shell」、TT「NGC」にドラゴン油田の天然ガス開発・輸出を委託”

2023年12月22日(金曜)

政治

- 「[アレックス・サアブ氏 解放の6条件](#)」
- 「[解放された米国人・ベネ人 拘束中に拷問?](#)」
- 「[米国務長官 墨訪問でベネズエラ問題協議](#)」

経済

- 「[ドラゴン油田の天然ガス開発で合意](#)
～Shell、NGCが油田開発・ガス輸出を引き受け～」
- 「[国内を走行する自動車の65%は国産車](#)」
- 「[外国人観光客数 前年比34%増の112万人](#)」

社会

- 「[サバナグランデ クリスマス前の賑わい](#)」

23年12月23-24日(土・日)

政治

- 「[FBI グアイド暫定政権の公金不正使用捜査](#)
～EVTV Miami 社長に事情聴取～」
- 「[英国 ガイアナに戦艦を派遣](#)」

- 「[ベネズエラ エセキボ付近で身分証を発行](#)」

経済

- 「[Cashea 支払い割賦システムの利用者増加](#)」
- 「[コスタリカーベネズエラ路線再開で合意](#)」
- 「[23年漁獲量 前年比63%増1170万トン](#)」

社会

- 「[マドゥロ政権 クリスマス玩具を配布](#)」

2023年12月22日(金曜)

政治
「アレックス・サアブ氏 解放の6条件」

前号「[ベネズエラ・トゥデイ No.1003](#)」で紹介した通り、バイデン政権・マドゥロ政権は囚人交換を実施。

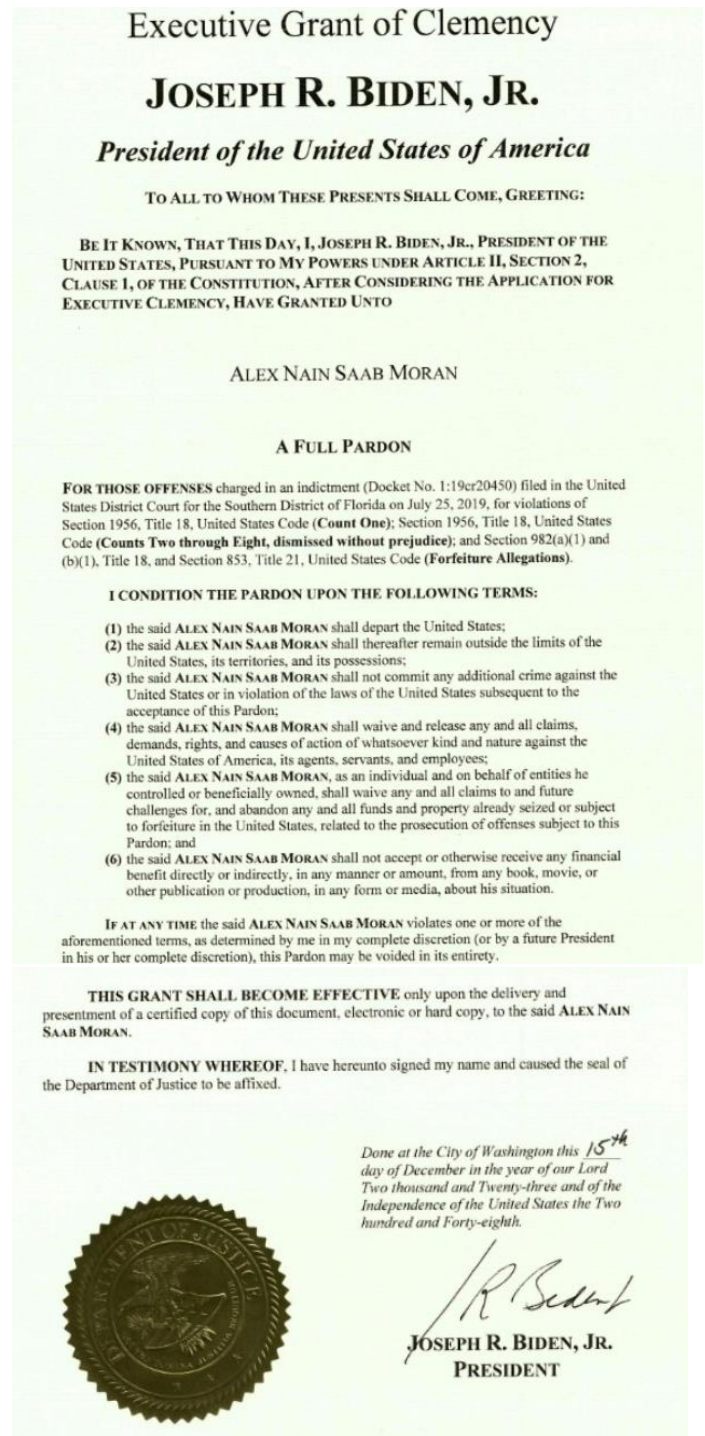
バイデン政権は、アレックス・サアブ氏を解放した。

サアブ氏の解放について、Joshua Goodman 記者は、ソーシャルメディアにて解放に際してサアブ氏が合意した6つの条件について投稿した。

6つの条件は以下の通り。

1. 解放後に米国を出ること
2. 米国域外に滞在し続けること
3. 米国に対する犯罪行為をしないこと、米国法で犯罪に該当するような行為をしないこと
4. 米国と米国組織・公務員らに対する全ての権利・クレーム・法的措置を放棄すること
5. 犯罪行為を理由に米国域内にて差し押さえを受けた、あるいは今後差し押さえを受ける全ての資産・所有権の権利を放棄すること
6. 自身の状況について、書籍・映画などによりメディアに公開することで、直接・間接的に金銭やそれに類似する種類のいかなる利益も得ないこと。

Goodman 記者によると、サアブ氏はこの合意により、DEA が押収した1,200万ドルの資産を失い、今後、自身の経験について書籍やドラマ化できないことになるという。



(写真) Joshua Goodman 記者 X

「解放された米国人・ベネ人 拘束中に拷問？」

マドゥロ政権は、米国籍の囚人10名およびマレーシア籍の汚職犯1名に加えて、ベネズエラ囚人24名を解放した。

この24名の中には、給料改定を求める抗議行動を行った際に逮捕された労働組合関係者の Alcides Bracho 氏、Gabriel Blanco 氏、Emilio Negrín 氏、Alonso Meléndez 氏、Néstor Astudillo 氏、Reynaldo Cortés 氏の6名が含まれている。

この6名のうちの1人である Gabriel Blanco 氏の証言によると、拘束されていた18カ月間はずっとハンモックで寝ることを強制されていたという。

また、Alcides Bracho 氏は拘束中の生活について、「政治犯だけではなく一般犯罪者と同じ刑務所に収容された」「刑務官が一般犯罪者に対して、私に嫌がらせをするようけしかけるなど地獄だった」

Reynaldo Cortés 氏は、「刑務所では食事・水分補給が出来る保証は無く、親族のサポートがない囚人は悲惨な生活を送ることになる」と述べた。

また、人権活動家 Tamara Suju 氏は、「今回解放された米国人 Edgar José Marval Moreno 氏は、拘束中に拷問を受けて背骨を傷めた」と訴えている。

「米国務長官 墨訪問でベネズエラ問題協議」

12月27日に米国のアンソニー・ブリンケン国務長官ら外交団がメキシコを訪問し、メキシコ政府高官と経済・外交問題について意見交換を行う予定。

同会談のテーマの中には、ベネズエラ・キューバとの外交関係、ベネズエラの移民問題も含まれるという。

メキシコのロペスオブラドール大統領は、移民問題について「我々は移民の急増により、異例の状況にある。多くの移民がメキシコを通り、米国に行こうとしている。この問題を解決するために一緒に協力する必要がある。」と言及した。

また、オブラドール大統領は、ベネズエラの与野党協議が進展していることについて評価。「政治的な対立が緩和することで移民問題は改善する」「ラテンアメリカ・カリブ海地域の安定と発展に寄与する」との見解を示した。

経 済**「ドラゴン油田の天然ガス開発で合意****～英 Shell が油田開発・ガス輸出を引き受け～**

12月21日 ベネズエラ政府とトリニダードトバゴ政府は、スクレ州パリア沖に位置する「ドラゴン油田」の開発について新たな合意を締結した。

同合意に署名したのは、ラファエル・テジェチェア石油相（PDVSA 総裁）とトリニダードトバゴのステュアート・ヤング・エネルギー工業相。署名式には、デルシー・ロドリゲス副大統領、英国のエネルギー会社「Shell」代表、トリニダードトバゴの国営ガス公社「NGC」代表らが出席した。

今回の合意を受けて、PDVSA は Shell と NGC に対して、ドラゴン油田の天然ガスの開発、輸出を委託することになる。ロイター通信によると、委託期間は30年だという。

初期段階の産油量は日量1.85億フィート。同油田で採掘された天然ガスをトリニダードトバゴの「ハイビスカス・プラットフォーム」に輸出し、同国で液化天然ガスや石油化学品に加工した上で、外国に輸出する予定となっている。



（写真）PDVSA

「外国人観光客数 前年比34%増の112万人」

アリ・パドロン観光相は、2023年の外国人観光客が前年比34%増の112万人になったと発表した。

特に23年11月は前年同期比70%増と外国人観光客数が大きく増加したとの見解を示した。

外国人観光客数の増加の理由について、「ベネズエラの観光資源に強い魅力がある」と協調。また、Covid-19からの回復による外国路線の増便を受けて、ベネズエラへの入国が容易になったことなどを挙げた。

また、2024年の外国人観光客数について150万人との目標を掲げた。

なお、観光客が増加した割にはホテルの空室率が高いとも報じられている。

その一因として、ベネズエラ人移住者が増加したことで、空室になった自宅やアパートの一室を「Airbnb」などを通じて旅行者に貸している人が増えているとの指摘がある。

社 会

「サバナグランデ クリスマス前の賑わい」

カラカスに「サバナグランデ」というショッピング通りがある。

クリスマス・年末を前にサバナグランデでは多くの出店が並び、買い物客でにぎわった。

出店はクリスマス用の玩具、お菓子などに加えて、ベネズエラでは「年始に新しい服を着る」という習慣もあり、出店では衣類が多く売られていたという。

「国内を走行する自動車の65%は国産車」

「ベネズエラ自動車製造者商工会 (Favenpa)」のオマール・バウティスタ代表は、「Union Radio」のインタビュー番組に出演。

ベネズエラの自動車産業の現状について語った。

バウティスタ代表によると、「2023年末時点でベネズエラ国内を走行している自動車の65%は国産自動車」だという。

また、「23年末のベネズエラ自動車製造業の工場稼働率は20%で、80%は稼働余力がある」とした。

他、現在販売されている自動車部品について、「国内産の部品は30～35%で、多くは外国産になっている」と説明した。



(写真) @MarvinBeisbol

2023年12月23日～24日（土曜・日曜）

政治

「FBI グアイド暫定政権の公金不正使用捜査
～EVTV Miami 社長に事情聴取～」

現地メディア「Venezuela News」は、米国の「連邦捜査局 (FBI)」が、グアイド暫定政権が使用したベネズエラ政府資金の使用用途について捜査を行っていると報じた。

具体的には、マイアミにある「EVTV Miami」という報道局に対して、暫定政権の資金が不正に流入していた可能性があるという。

グアイド暫定政権は、マドゥロ政権からベネズエラ政府機能を取る政策を進めており、その一環として「EVTV Miami」をベネズエラ政府が出資している国際メディア「TELESUR」に変えようとし、多くの資金を投入していたという。

この取引について捜査を行うため、FBI職員が「EVTV Miami」のカルロス・メンデス社長に事情聴取を行ったと報じられている。

グアイド議長に近い人物（匿名）の証言によると、メンデス社長はグアイド氏からいくらか資金を受け取ったのかを明らかにしなければならないという。

「英国 ガイアナに戦艦を派遣」

12月24日 英国政府はガイアナに対して軍艦を派遣した。ガイアナは元々英国の植民地であり、現在のガイアナの国境についても英国領時代に定められたものとなっている。

英国海軍は、ガイアナへの軍艦派遣について「麻薬対策のためのパトロール」「ガイアナとの外交・軍事分野の協力の証明」と説明しているが、国境問題が緊迫する状況での軍艦派遣はベネズエラとの間に緊張を生むことになる。

同日、ベネズエラのバドリーノ・ロペス国防相は、英国海軍による軍艦の派遣を非難。

「今回のような挑発行為は、カリブ海を不安定にする」「12月14日に両国首脳が交わした国境問題の合意履行の脅威となる」との見解を示した。

「ベネズエラ エセキボ付近で身分証を発行」

上記の通り、ロペス国防相は、ガイアナ・英国政府を批判しているが、マドゥロ政権も挑発行為と理解されるような行動を続けている。

ベネズエラ政府の「出入国・身管理庁 (SAIME)」は、エセキボ領土の近くの町で身分証明書 (セドゥラ) の発行作業を実施。

12月10日～22日までに4015件の身分証明書を発行したと発表した。また、1月8日まで身分証明書の発行手続きの受け付けを続けるという。

12月14日にマドゥロ大統領とアリ大統領がセントビンセント・グレナディーン諸島にて会合。

紛争を悪化させる如何なる言動・行動を停止することで合意していたが、両国ともにこの合意を順守する意思は希薄のようだ。

経 済

「Cashea 支払い割賦システムの利用者増加」

ベネズエラで「Cashea」という支払い割賦システムの利用が増加しているという。

Casheaは、携帯電話・ipadなどにダウンロードして使用するアプリケーション。どの店でも使用できるわけではなく、Casheaの提携店でのみ使用できるようだ。

同アプリケーションをダウンロードし、必要事項を登録した後、アプリケーションが自動的に、その人の属性に合わせてクレジット限度額を決定する。

利用者は、その限度額の範囲内であれば、自身の収入を超えてCasheaで支出することができるという。

なお、クレジット限度額は40ドル、50ドルなどそこまで大きな金額にはならないようだ。

現地メディア「Alnavio」は、「Cashea」を利用しているベネズエラ一般人 Gladys Navarro 氏にインタビューを行った記事を公開。

「クリスマスで子供に玩具を買うための予算は50ドルだったが、Casheaを利用することで予算が増えた」「購入後に分割で支払っている」とコメントした。

「コスタリカーベネズエラ路線再開で合意」

ベネズエラとコスタリカは、両国の路線再開についての覚書を締結した。

同覚書によりコロンビアの航空会社「Avianca」が、カラカス(シモンボリバル国際空港)ーサンホセ(ファン・サンタマリア国際空港)間を運航することになる。

ただし、具体的な運航開始のタイミングは公表されていない。



(写真) ベネズエラ航空監督局 (INAC)

「23年漁獲量 前年比63%増1170万トン」

漁業養殖省傘下の「漁業サービス公社 (Corpopesca)」は、2023年の漁獲量が前年比63%増の11,696,821トンだったと発表した。

具体的には、白身魚4,506トン、太刀魚1,552トンなどが獲れたという。

社 会

「マドゥロ政権 クリスマス玩具を配布」

デルシー・ロドリゲス副大統領は、「クリスマスを前にマドゥロ政権は、1,350万超の玩具を配布した」と発表した。

また、クリスマス賞与として「祖国システム」の登録者に5ドル相当のポリバル、警察官に99ドル相当のポリバルを支給したという。なお、公務員の年金受給者を対象に55ドル相当のポリバルを支給している。



(写真) 副大統領府

以上